

1. 機構

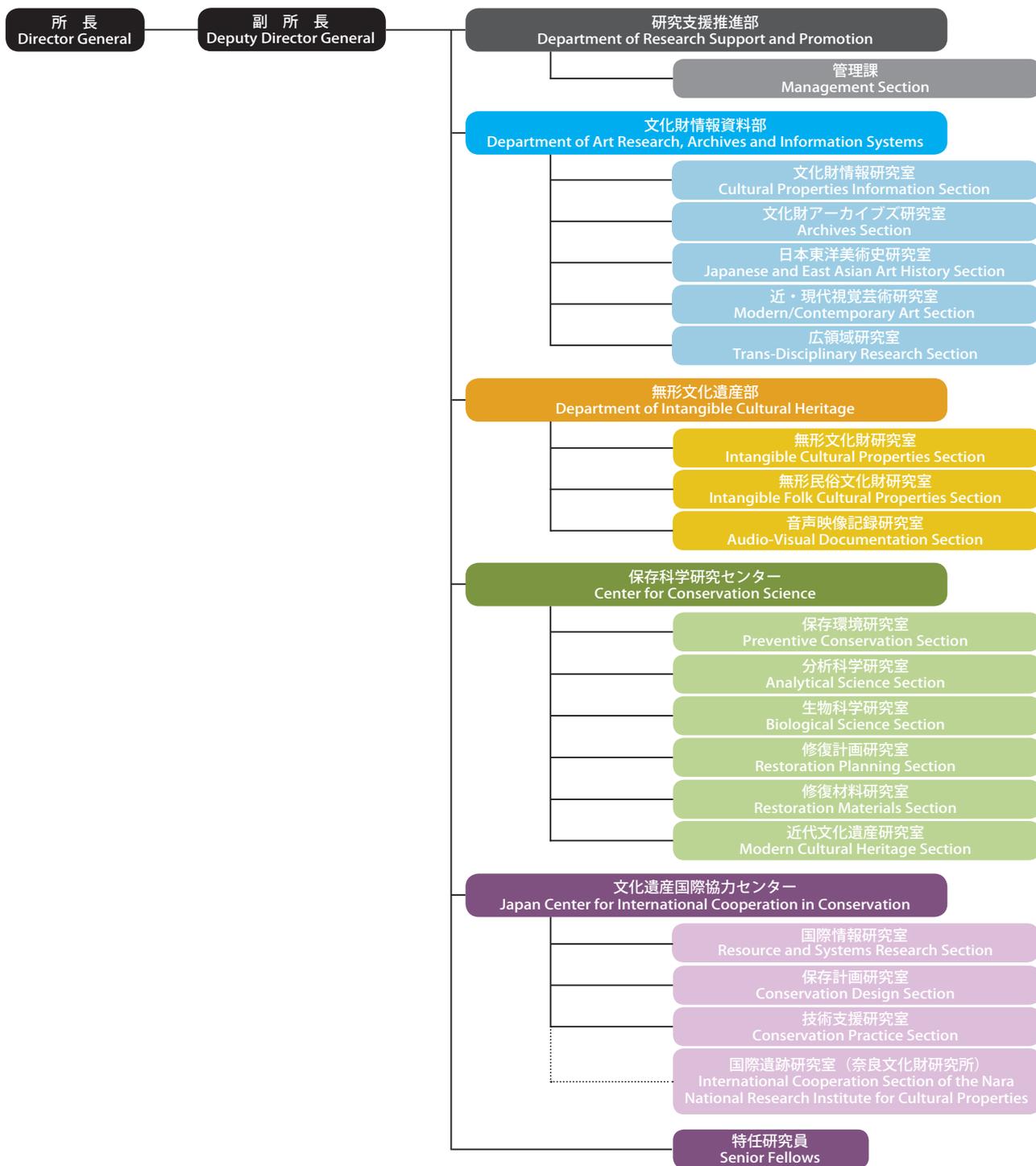
1. 組織図	7
2. 組織の概要と職員	8
(1) 研究支援推進部	8
(2) 文化財情報資料部	9
(3) 無形文化遺産部	10
(4) 保存科学研究センター	11
(5) 文化遺産国際協力センター	13
(6) 特任研究員	13

1. 組織図

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage

Tokyo National Research Institute for Cultural Properties



2. 組織の概要と職員

所長 齊藤 孝正 (日本陶磁史)、副所長 山梨 絵美子 (日本近代絵画史)

(1) 研究支援推進部

〈組織概要〉

研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理課に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。

本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

総務係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設並びに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規程の制定・改廃に関する事務等を行っている。

財務係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

契約係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び、旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

研究支援推進部長	川島美奈子 *1	財務係長	日高信二
管理課長	安達佳弘	事務補佐員	前田桐里 *9
室長	日高信二	事務補佐員	町田沙織 *10
総務係長	安川政和 *2	事務補佐員	岸 薫美 *11
	井上裕介 *3	契約係長	大島大輔 *13
事務補佐員	岡崎瑠美 *4	事務補佐員	坂田茉莉衣 *12
事務補佐員	勝田こと	事務補佐員	小河みづほ *14
事務補佐員	並木沙保里	事務補佐員	木村諒子
事務補佐員	佐々木彩乃 *5	事務補佐員	安藤 遥
企画渉外係長	三本松俊徳	事務補佐員	福田里美
任期付専門職員	小田切真梨 *6	事務補佐員	辻 光紗 *15
	廣原大樹 *7	事務補佐員	三宅真保 *10
事務補佐員	石川絵梨子	事務補佐員	田中亜純 *8
事務補佐員	松澤和恵 *8	事務補佐員	高山尚美 *16

* 1 平成 31 年 4 月 1 日付文化庁より異動

* 2 令和 元 年 7 月 1 日付機構本部へ配置換

* 3 令和 元 年 7 月 1 日付機構本部より配置換

* 4 平成 31 年 4 月 1 日付採用

* 5 令和 2 年 2 月 29 日付退職

* 6 令和 2 年 1 月 17 日付退職

* 7 令和 2 年 1 月 1 日付採用

* 8 令和 元 年 12 月 1 日付採用

* 9 令和元年6月30日付退職
* 10 令和元年9月30日付退職
* 11 令和元年7月16日付採用
* 12 令和元年10月1日付配置換

* 13 令和2年3月31日付東京大学へ異動
* 14 令和2年3月31日付退職
* 15 令和元年6月1日付採用
* 16 令和元年11月18日付採用

(2) 文化財情報資料部

〈組織概要〉

文化財情報資料部は、文化財に関する調査研究を実施するとともに、調査研究の成果・情報についてのアーカイブ化を進め、適した情報インフラストラクチャを整備し、研究の成果・情報の適宜公開を行う。また国内外の研究機関との研究交流を実施する。調査研究においては、1) 黒田清輝(1866-1924)の遺言により造られた黒田記念館に設置された美術研究所以来の黒田周辺の作家等との交流を中心とした近現代作品の研究を進めるとともに、2) 日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究に資する良質な資料や情報を作成・提供する。また、3) 時代や地域などにとらわれない横断的な広領域にわたるテーマを設定し、人文学のほか、自然科学的研究手法の応用を進め、多角的な視点から研究を進める。併せて、黒田記念館における作品と研究成果の展示について当部が担当する。4) 研究情報のアーカイブ化においては、文献資料、過去の調査記録等のデジタル化を推進し、研究のための閲覧促進を目的とする画像データベースを作成・運用する。画像資料にとどまらず文献資料及び研究情報を付加した文化財の専門的アーカイブを構築する。5) 研究成果の公開の一環として、『美術研究』(年3冊)、『日本美術年鑑』(年1冊)ほかの公刊、オープンレクチャーを開催する。所内各部門の研究情報の共有化のために総合研究会を企画・開催し、各年度の研究や事業を総括した年報編集の事務を取り扱う。6) 研究情報発信のため、所内広報委員会の情報システム部会ならびにアーカイブ委員会下にあるアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を運用・管理し、ウェブサイト及び外部公開データベースの充実を図る。さらに、資料閲覧室で架蔵図書等の諸資料の公開閲覧を担う。

文化財情報研究室

情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、文化財情報データベースを拡充する。また、ウェブサイトの構築・運用を通じて研究成果公開を行う。さらに、文化財情報及び情報技術の文化財保護への活用について研究を行う。

画像情報室：光学理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成技術を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

文化財アーカイブズ研究室

文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集・整理し、文化財情報統合アーカイブを作成し、全所的にとりまとめて公開する。

資料閲覧室：受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に一般の利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。

日本東洋美術史研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。また、美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集・整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査・研究する。

広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から文化財を研究し、その材料・技法・制作過程等を明らかにする。

文化財情報資料部長	塩谷 純	(日本近代絵画史) *1	研究補佐員	田村彩子	(資料保存) *6
文化財情報研究室長	二神葉子	(考古科学)	研究補佐員	逢坂裕紀子	(都市社会学) *7
文化財アーカイブズ研究室長	江村知子	(日本絵画史)	研究補佐員	安岡みのり	(ウェブ作成)
日本東洋美術史研究室長	小林達朗	(日本中世絵画史)	研究補佐員	丸山 礼	(ウェブ作成) *5
近・現代視覚芸術研究室長	塩谷 純	(日本近代絵画史) *2	研究補佐員	尾野田純衣	(美術資料)
広領域研究室長	小林公治	(物質文化史)	客員研究員	三上 豊	(近現代美術)
主任研究員	小野真由美	(日本近世絵画史)	客員研究員	丸川雄三	(情報学)
研究員	安永拓世	(日本近世絵画史)	客員研究員	中野照男	(東洋絵画史)
研究員	橘川英規	(美術資料)	客員研究員	田中 潤	(近代史料) *6
研究員	小山田智寛	(美学・情報学)	客員研究員	片山まび	(東洋陶磁史)
研究員	米沢 玲	(仏教美術史)	客員研究員	田中 淳	(日本近代絵画史)
専門職員	城野誠治	(画像情報・文化財写真)	客員研究員	齋藤達也	(フランス近代美術)
アソシエイトフェロー	三島大暉	(図書館情報学) *3	客員研究員	永崎研宣	(人文情報学・仏教学)
アソシエイトフェロー	野城今日子	(日本近現代彫刻史)	客員研究員	津田徹英	(日本彫刻史)
研究補佐員	手呂内孝憲	(日本近代絵画史) *4	客員研究員	田所 泰	(日本近代美術史)
研究補佐員	阿部朋絵	(美術資料) *8	兼務	久保田裕道	(無形文化遺産部)
研究補佐員	細川民子	(美術資料) *5	兼務	西 和彦	(文化遺産国際協力センター)
研究補佐員	谷口每子	(画像形成)	兼務	早川典子	(保存科学研究センター)
研究補佐員	寺崎直子	(日本絵画史)	併任	皿井 舞	(東京国立博物館)
研究補佐員	大前美由希	(現代美術) *6			

* 1 平成 31 年 4 月 1 日付昇任

* 2 平成 31 年 4 月 1 日付兼務

* 3 令和 2 年 1 月 10 日付退職

* 4 令和 元年 10 月 1 日付採用、令和 2 年 3 月 31 日付退職

* 5 令和 2 年 3 月 31 日付退職

* 6 平成 31 年 4 月 1 日付採用

* 7 令和 元年 6 月 30 日付退職

* 8 令和 元年 10 月 1 日付採用

(3) 無形文化遺産部

〈組織概要〉

無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。内容は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行うことのできない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

このほかに、無形文化遺産分野についてアジアを中心に海外との研究交流も実施している。

無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行って

いる。

音声・映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

無形文化遺産部長	山梨絵美子 (日本近代絵画史) *1	客員研究員	原田一敏 (工芸技術)
無形文化財研究室長	前原恵美 (古典芸能)	客員研究員	荒川正明 (工芸技術) *4
無形民俗文化財研究室長	久保田裕道 (民俗芸能)	客員研究員	俵木 悟 (民俗芸能)
音声映像記録研究室長	石村 智 (文化遺産学)	客員研究員	松山直子 (工芸技術)
主任研究員	菊池理予 (工芸技術) *2	客員研究員	今岡謙太郎 (古典芸能)
主任研究員	今石みぎわ (民俗学)	客員研究員	永井美和子 (修復技術)
	(文化財防災ネットワーク推進事業)	客員研究員	大西秀紀 (古典芸能)
アソシエイトフェロー	佐野真規 (映像アーカイブ)	客員研究員	鎌田紗弓 (古典芸能)
	(近代史) *3	客員研究員	菊池健策 (民俗学)
研究補佐員	半戸 文 (工芸技術)	客員研究員	宮澤京子 (文化財映像学)
研究補佐員	牛村仁美 (工芸技術)	客員研究員	森下愛子 (工芸技術)
研究補佐員	金 昭賢 (古典芸能)	客員研究員	宮田繁幸 (民俗芸能)
客員研究員	星野厚子 (古典芸能)	客員研究員	神野知恵 (民俗芸能)
客員研究員	齊藤裕嗣 (古典芸能・民俗芸能)	客員研究員	赤井紀美 (近代演劇)
客員研究員	山崎 剛 (工芸技術)	客員研究員	橋本かおる (古典芸能)
客員研究員	谷垣内和子 (古典芸能)		
客員研究員	伊藤 純 (民俗学)		

* 1 平成 31 年 4 月 1 日付兼務

* 2 令和 2 年 3 月 31 日付文化庁へ異動

* 3 令和 元 年 8 月 31 日付退職

* 4 令和 2 年 3 月 31 日付退職

(4) 保存科学研究センター

〈組織概要〉

保存科学研究センターは、文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究を行うナショナルセンターとしての役割を担っている。科学的な方法を用いて、文化財を取り巻く環境の調査や文化財の材料及び構造に関する調査を行い、文化財の保存や理解に役立つ知見の集積・発信を行っている。また、文化財の置かれた環境履歴を調査し、適切な修復材料・技術の改良・開発、評価及びメンテナンス手法に関する研究を行っている。得られた研究成果は紀要『保存科学』を通じて、すみやかに公開している(ウェブにてフリーアクセスコンテンツ)。これらの知見をもとに、「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・助言」の4項目について、地方公共団体に対して協力を行い、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。また、国立文化財機構内の2研究所・4博物館に加え、2018(平成30)年7月に設立された文化財活用センターの保存修復担当の研究員を保存科学研究センターの併任とし、文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互に連携して、随時取り組む体制を構築している。

保存環境研究室

博物館・美術館など展示・収蔵施設における文化財の安全な保存環境の確立のため、温度湿度、光、空気汚染物質などが文化財に与える影響を調べ、劣化を予防する研究を行っている。劣化因子の測定方法の基準化を図るとともに、各施設の担当者と連携し、現場での環境モニタリングや、改善のための実証研究も行っている。LED・有機ELなどの新しい光源の展示・収蔵環境に及ぼす影響や照明効果などに関する研究に重点を置いている。

分析科学研究室

様々な科学的分析手法によって文化財の構造・材質を調査し、劣化状態を含む文化財の物理的・化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。X線や光を使った非破壊的な手法を中心に、各種小型可搬型機器を

用いた調査方法の開発とその応用によって、文化財の構造・制作技法のみならず美術史・工芸史・考古学等との連携により制作年代・生産地研究などへ視野を拡げ、文化財の総合研究を実現、牽引している。

生物科学研究室

昆虫やカビなど、生物による文化財の劣化機構の解明とその防除方法に関する調査研究を行っている。博物館や美術館などの展示・収蔵環境にある文化財、歴史的建造物や古墳などの屋外にある文化財の生物が原因となる劣化現象の発生原因と解決方法について調査研究を行うとともに、生物が発生・繁殖することによる観覧者や作業員などの人体への影響も視野に入れた対策の開発に力を入れている。

修復計画研究室

文化財の持つ本質的な価値をできるだけ改変することなく次の世代へと伝えていくために、その文化財を構成する材料の特性を確認し、それが置かれている環境を調査し、適切な修復と保存の方針を策定していくための研究を行っている。

修復材料研究室

膠や漆などの伝統的材料、近代になり開発され使用されてきたものなど、従来文化財修復に使用されてきた修復材料の評価と改良を行うとともに、新しい修復材料の開発評価、及び修復への適用方法の検討を行っている。併せて、安全な文化財修復を実現するために、文化財の伝統的製作技法や材料製作に関する調査研究を行っている。

近代文化遺産研究室

工場・橋梁などの大型建造物、航空機、鉄道車両などの機械器具、フィルムや洋紙などの工業製品など、日本の近代化を担ってきた文化遺産に関して、保存修復のための情報収集、技術・材料の調査及び開発を行い、次世代に適切に伝えていくための保存手法・保存計画のあり方等を研究している。

保存科学研究センター長	佐野千絵	(保存環境学)*1	客員研究員	本多貴之	(高分子分析)
保存科学研究センター副センター長	早川泰弘	(分析化学)	客員研究員	山内泰樹	(視覚情報処理)
保存環境研究室長	佐野千絵	(保存環境学)*1	客員研究員	山本記子	(装潢修理技術)
分析科学研究室長	犬塚将英	(物理計測)	客員研究員	貴田啓子	(保存科学)
生物科学研究室長	佐藤嘉則	(微生物生態学)	客員研究員	岡田 健	(文化財学)
修復計画研究室長	朽津信明	(地質学)	客員研究員	古田嶋智子	(保存科学)
修復材料研究室長	早川典子	(高分子化学)	客員研究員	片山葉子	(環境微生物学)
近代文化遺産研究室長	早川泰弘	(分析化学)*2	客員研究員	宇高健太郎	(東洋絵画材料)
研究員	倉島玲央	(有機化学)	客員研究員	苅田重賀	(航空史)
研究員	水谷悦子	(環境工学)*3	客員研究員	簡 佑丞	(土木史)
アソシエイトフェロー	石田真弥	(建築史)*1	連携併任	富坂 賢	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	小峰幸夫	(応用昆虫学)	連携併任	荒木臣紀	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	嶋原由美	(油彩画保存修復)*4	連携併任	和田 浩	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	藤井佑果	(東洋絵画修復)	連携併任	土屋裕子	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	林 美木子	(文化財防災ネットワーク推進事業)	連携併任	瀬谷 愛	(東京国立博物館)
研究補佐員	相馬静乃	(保存科学)*3	連携併任	横山 梓	(東京国立博物館)
研究補佐員	山府木碧	(漆工品保存修復)	連携併任	大原嘉豊	(京都国立博物館)
研究補佐員	柳沼由可子	(考古学)*1	連携併任	福士雄也	(京都国立博物館)
研究補佐員	鳥海秀実	(絵画保存修復)	連携併任	降幡順子	(京都国立博物館)
研究補佐員	岡部迪子	(保存科学)	連携併任	鳥越俊行	(奈良国立博物館)
研究補佐員	中村 舞	(保存科学)*5	連携併任	木川りか	(九州国立博物館)
事務補佐員	小安友利恵		連携併任	志賀智史	(九州国立博物館)
客員研究員	酒井清文	(酵素工学)	連携併任	秋山純子	(九州国立博物館)
客員研究員	藤井義久	(木材科学)	連携併任	高妻洋成	(奈良文化財研究所)
客員研究員	堤 一郎	(産業技術史)*1	連携併任	脇谷草一郎	(奈良文化財研究所)
客員研究員	北原博幸	(建築環境学)	連携併任	田村朋美	(奈良文化財研究所)
客員研究員	大場詩野子	(油画修復)	連携併任	松田和貴	(奈良文化財研究所)
客員研究員	吉澤 望	(建築環境工学)	連携併任	吉田直人	(文化財活用センター)
客員研究員	小堀信幸	(船舶)*1	連携併任	間 澗 創	(文化財活用センター)

*1 令和2年3月31日付退職

*2 平成31年4月1日付兼務

*3 平成31年4月1日付採用

*4 令和元年5月31日付退職

(5) 文化遺産国際協力センター

〈組織概要〉

文化遺産国際協力センターは、文化遺産の保存修復及び調査研究の分野においてわが国が国際協力を推進するためのナショナルセンターとしての役割を担っており、国内外の教育研究機関や民間団体等とも連携しながら、世界各地で積極的な協力活動を実施している。その活動内容は、文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信、文化遺産保護国際協力事業の実施、文化遺産の保存修復に関する技術移転・人材育成協力等、多岐にわたっている。

国際情報研究室

国際社会における文化遺産に関する理念や法制度等、文化遺産の保護制度や施策に関して、国際動向や国際協力等の情報を収集・分析している。また、研究協議会等を通じて情報発信している。

保存計画研究室

アジア諸国等の文化遺産の保存・管理・整備・活用に関し、現地政府機関等と協力しながら、調査研究及び計画立案、さらには事業実施にあたっての技術的助言等を行っている。また、紛争や自然災害時における被災文化遺産の救済や復興活動にも協力している。

技術支援研究室

文化遺産の修復手法や材料及び技術に関する調査研究や人材育成への協力など、技術移転を通じて諸外国への支援を行っている。

文化遺産国際協力センター長	友田正彦	(建築学)	アソシエイトフェロー	五嶋千雪	(現代美術)
国際情報研究室長	西和彦	(建築学)	アソシエイトフェロー	牛窪彩絢	(宗教学)*5
保存計画研究室長	金井健	(建築学)*1	アソシエイトフェロー	浅田なつみ	(建築学)
技術支援研究室長	加藤雅人	(製紙科学)	アソシエイトフェロー	堀まなみ	(紙保存修復)*6
研究員	前川佳文	(壁画保存修復)	アソシエイトフェロー	片渕奈美香	(染織品保存科学)*7
研究員	安倍雅史	(考古学)	研究補佐員	橋本広美	(保存科学)*8
アソシエイトフェロー	小田桃子	(東洋絵画保存修復)*2	事務補佐員	石田智香子	
アソシエイトフェロー	ヴァルエリフベルナ	(建築学)*3	事務補佐員	岡崎未来	
アソシエイトフェロー	マルティネスアレハンドロ	(建築学)*4	事務補佐員	廣野都未	*5
アソシエイトフェロー	松保小夜子	(文化政策)	客員研究員	石井美恵	(染織修復・染織品保存科学)*8
アソシエイトフェロー	牧野真理子	(考古学)	客員研究員	大河原典子	(日本画)
アソシエイトフェロー	後藤里架	(保存修復)	客員研究員	杉山恵助	(東洋絵画修復)
アソシエイトフェロー	境野飛鳥	(保護制度)	客員研究員	山田大樹	(地域計画)
アソシエイトフェロー	間舎裕生	(考古学)	兼務	二神葉子	(文化財情報資料部)
アソシエイトフェロー	五木田まきは	(文化資源学)	兼務	石村智	(無形文化遺産部)

*1 平成31年4月1日付文化庁より異動

*2 令和2年1月15日付退職

*3 令和元年8月1日付採用

*4 令和元年9月30日付退職

*5 平成31年4月1日付採用

*6 令和元年5月1日付採用、令和元年9月30日付退職

*7 令和元年12月1日付採用

*8 令和2年3月31日付退職

(6) 特任研究員

川野邊渉 (高分子化学)
 高桑いづみ (古典芸能)
 飯島満 (古典芸能)
 中山俊介 (船舶工学)